

**授業概要**

この授業では、一般に「古典文学」と呼ばれる文学作品について、歴史の流れにそって講義する。基礎的な文学史について学んでいくことを目標とするため、日本文学に興味がある学生、古典を学ぶきっかけがほしい学生、国語の教員免許取得を目指す学生に受講してもらいたい。

古典や文学への興味について堅苦しく捉える必要はない。近年の漫画・アニメ・ゲームには文学作品・作者を題材としたものも多く、そうした作品に対する興味も立派な理由の一つである。「ある作品の登場人物の背景を理解したい」「あるストーリーの元となった作品への理解を深めたい」と思う時、それは文学への関心の第一歩である。可能な限り、それぞれの時代の文学作品に触れることができる授業を目指している。

**授業計画**

第 1 回	「古典文学」の範囲 と 時代区分
第 2 回	上代文学①
第 3 回	上代文学②
第 4 回	中古文学①
第 5 回	中古文学②
第 6 回	中古文学③
第 7 回	中古文学④
第 8 回	中世文学①
第 9 回	中世文学②
第 10 回	中世文学③
第 11 回	中世文学④
第 12 回	近世文学①
第 13 回	近世文学②
第 14 回	近世文学③
第 15 回	まとめ
第 16 回	定期試験

**到達目標**

- ①江戸時代末期までの日本文学の大まかな流れを把握する。
- ②各時代における代表的な文学作品を覚える。

**履修上の注意**

基礎的な文学史についての授業なので事前知識は必要ないが、授業で出てきた作品についてはしっかりと復習して試験に備えること。

**予習・復習**

授業ごとに内容を復習しておくことが望ましい。

**評価方法**

質問への答えを含めた授業態度（20%）・定期試験（80%）の結果で判断する。

**テキスト**

授業ごとにプリントを配布する。参考文献は授業内で紹介する。

日本文学史全体としては、久保田淳編『日本文学史』（おうふう）はオーソドックスな内容。小西甚一『日本文学史』（講談社学術文庫）・同『日本文藝史』1～5（講談社）は独自の視点で文学史を形成する。ドナルド・キーン『日本の文学』・『日本文学史』1～18（ともに中公文庫）は手に取りやすい。丸谷才一『日本文学史早わかり』（講談社文芸文庫）なども悪くない。